

巻 頭 言

生存圏研究所は、京都大学が木質科学研究所と宙空電波科学研究センターを統合し、平成16年度に新しい理念の基づき設置した新生の研究所です。生存圏とは、地表から地球近傍の宇宙空間まで、人類や生物の生存に必要な空間・領域を統合的に捉えた概念であり、人間活動と周辺環境とが相互に影響を及ぼし合う空間と定義づけることができます。

生存圏科学は、生存圏を三次元的・包括的に捉え、その状態を正確に「診断」し、生存圏の正しい現状と将来についての評価・理解のうえに立ち、新たな生存圏の「開拓」に向けた先進的な技術開発を目指す新しい学際総合科学です。

最近話題の「不都合な真実」(アル・ゴア著)には、地球の環境劣化を示す世界各地からの警告が溢れています。地球の温暖化が現実のものになってきていることを、私たちの日常生活のなかでも感じるが多くなってきました。本年初頭に公表されたIPCC(気候変動に関わる政府間パネル)の第4次評価報告書は、自然科学的根拠に基づく最新の知見を取りまとめたうえで、地球の気候システムに温暖化が起こっていることを断定し、しかも、その原因が人為起源の温室効果ガスの増加に因ることをほぼ断定しています。

生存圏研究所は、このような社会的な課題を背景に太陽エネルギーに依存した持続型社会の構築に向けて生存圏科学の創成を目指し、全国・国際共同利用研究所として、人類の生存を脅かす諸問題の解決に取り組んでいます。

本誌、「生存圏研究」は、生存圏研究所の和文紀要であり、生存圏科学を様々な角度から取り組んだ研究成果ならびに関連する活動報告を取りまとめたものです。一般の方にもわかりやすく解説した生存圏の最新科学の情報を総説として記載しているほか、開放型研究推進部の全国・国際共同利用の報告、生存圏学際萌芽研究センターの活動報告、研究業績等が掲載されています。

本誌が生存圏科学の方向を示す羅針盤となり、関連学術領域の研究者や技術者ばかりでなく、一般市民にも広く活用される報告書となることを期待し、巻頭言とします。

平成19年3月25日

生存圏研究所
所長 川井秀一